

施策評価シート

評価実施年度：令和元年度

幹事部局

環境生活部

<p>施策の名称</p>	<p>施策Ⅲ－４－２ 自然とのふれあいの推進</p>
<p>施策の目的</p>	<p>自然公園・森林公園や自然学習施設を自然の観察や環境学習の場として活用し、県民の身近な自然とのふれあいを推進します。</p>
<p>施策の現状 に対する評価</p>	<p>(自然公園・森林公園等の活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然公園、自然歩道等の利用者は当初目標を上回り推移しているほか、ふるさと森林公園、県民の森、しまね花の郷でも、多くの利用者に親しまれている。一方、各施設で老朽化が進む等により、維持管理のコスト、労力を要している。 ・しまねの自然公園満喫プロジェクトによって、遊歩道や看板等の整備、各地域協議会での自然体験プログラムの造成、トレッキングなどのモニターツアーの実施により、利用者増に一定の成果が出ているが、ガイド人材が不足している。 ・隠岐ユネスコ世界ジオパークについては、展示施設の整備等を進めているものの、認知度不足等により、交流人口増などの具体的な数値に結果が表れていない。 <p>(自然学習施設の活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクアスやサヒメル、ゴビウスでは、学習要素を取り入れた企画展示の実施や、体験イベントの開催等などにより、多くの県民等へ自然の観察や環境学習の機会の創出につながったが、施設によっては入館者数が鈍化している。展示内容の価値を伝える工夫や、魅力あるイベントの開催等に引き続き取り組む必要がある。
<p>今後の取組み の方向性</p>	<p>(自然公園・森林公園等の活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと森林公園、県民の森は安全かつ快適に利用できるよう維持管理しながら計画的な施設整備を行うとともに、突発的な修繕等への迅速な対応に努める。 ・しまねの自然公園満喫プロジェクトにより、遊歩道や案内看板等の整備を引き続き行うとともに、体験プログラムの充実やガイド養成等を行うために地域協議会を支援し、利用しやすい環境整備に努める。また、広域モデルツアーの実施などにより国内外からの来訪者の増加を図る。 ・隠岐ユネスコ世界ジオパークでは、SNS活用等による情報発信、来島者の満足度向上のためのガイド養成や旅行商品の開発、島民対象の学習会の開催や学校教育との連携による人材育成を行うとともに、これらの活動拠点となる拠点・中核施設も整備する。 <p>(自然学習施設の活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクアス、サヒメル、ゴビウスの各施設において、新たな魅力を感じてもらおう各種イベントの開催や、情報発信の強化などにより利用者の増加を図る。また、展示内容の価値や魅力が伝わるよう工夫し、利用者の満足度向上に努める。

施策に関連する指標の一覧

施策の名称	施策Ⅲ－４－２ 自然とのふれあいの推進
-------	---------------------

施策の目的達成に向けて取り組む事務事業において設定している主な成果参考指標

項番	施策の成果参考指標	指標名	平成27年度	平成30年度		令和元年度	単位
			実績値	目標値	実績値	目標値	
1	○	自然公園等の年間利用者数	1,292.2	1292.2 (978.0)	1,179.6	1292.2 (978.0)	万人
2	○	自然学習施設の年間入場者数	629.0	626.0 (621.0)	579.0	626.0 (621.0)	千人
3		隠岐島 交流人口数(推定入島客数)	132.9	150.0	123.8	150.0	千人
4		隠岐ジオパークのユネスコ世界ジオパークの再認定及びその継続	1.0	1.0	1.0	1.0	件
5		大山隠岐国立公園（島根県内）訪日外国人利用者数	—	17.0	R2.1月頃 公表予定	20.0	千人
6		花ふれあい公園「しまね花の郷」入園者数	63,421.0	65,000.0	66,983.0	70,000.0	人
7		ふるさとの森利用者数	11,786.0	12,900.0	12,026.0	13,300.0	人
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							

事務事業の一覧

施策の名称	施策Ⅲ-4-2 自然とのふれあいの推進			
-------	---------------------	--	--	--

	事務事業の名称	目的 (誰(何)を対象として、どのような状態を目指すのか)	前年度 事業費 (千円)	今年度 事業費 (千円)	所管課名
1	県立しまね海洋館の管理運営	日本海を中心とした水生生物の間近で見ることのできる場を創出し、質の高い自然学習の機会や、遊空間を広く県民等に提供する。	212,539	216,332	しまね暮らし推進課
2	自然公園管理事業	安全で快適な利用の確保を図る。	25,486	94,814	自然環境課
3	中国自然歩道管理事業	安全で快適な利用の確保を図る。	37,450	33,150	自然環境課
4	三瓶自然館サヒメル等の施設管理運営事業	自然についての体験や学習を通じて、自然保護の重要性などを理解してもらう。	307,622	328,934	自然環境課
5	花ふれあい公園事業	①多くの県民が四季を通じて花に親しみ、ふれあえる暮らしが実現される。 ②「島根の花」の情報発信により、花きの消費拡大や生産振興が図られる。	84,273	84,856	農産園芸課
6	宍道湖自然館管理運営事務	島根の汽水・淡水域に生息する水生生物を中心とした展示及び調査研究を通して、島根の豊かな自然について、楽しみながら学ぶ機会を提供する。	111,271	113,005	水産課
7	隠岐ユネスコ世界ジオパーク活用推進事業	平成25年9月に世界認定となった隠岐ジオパークの取り組みで、持続可能な経済活動や文化活動を推進することにより、隠岐地域の活性化と振興を図る。	49,654	77,458	自然環境課
8	森林林業体験活動推進事業	森林とふれあうことを通じて森林に対する理解を促進する。	40,460	43,242	林業課
9	しまねの自然公園満喫プロジェクト推進事業	県内の自然公園の活用を図り、外国人利用者をはじめとした公園利用者の増加を目指す。	426,415	512,634	自然環境課
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
39					
40					

事務事業評価シート 評価実施年度： 令和元年度

上位の施策	施策Ⅲ-4-2 自然とのふれあいの推進
-------	------------------------

1 事務事業の概要

担当課	しまね暮らし推進課
-----	-----------

名称	県立しまね海洋館の管理運営				
目的	誰(何)を対象として	県民	事業費 (千円)	前年度実績	今年度計画
	どういう状態を目指すのか	日本海を中心とした水生生物を間近で見ることのできる場を創出し、質の高い自然学習の機会や、遊空間を広く県民等に提供する。		212,539	216,332
今年度の取組内容	水生生物等の展示、調査研究、学習機会の整備、意識啓発などを行うため、指定管理者制度により施設の管理運営を行う。 指定管理者制度の円滑な運営にあたり、指定管理者である公益財団法人しまね海洋館との連絡調整や老朽化した備品等の更新・修繕を行う。				
前年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> 入館者の動態やニーズ、しまね海洋館の課題等を把握するためのアンケート調査を実施 広報宣伝の重点地域として山陽方面でのPRを強化 				

2 成果参考指標等の状況

成果参考指標		年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位		
1	指標名	県立しまね海洋館の入館者数	目標値		36.9	36.9	36.9	36.9	万人以上	
	式・定義	実数(公益財団法人しまね海洋館からの報告値)	実績値	37.4	35.8	28.8	33.4			
			達成率	-	97.1	78.1	90.6	-		%
2	指標名		目標値							
	式・定義		実績値							
			達成率	-	-	-	-	-		%

「成果参考指標」の他に参考とすべきデータや客観的事実など

○入館者数は、本館シロイルカプール改修工事が終わり、シロイルカパフォーマンスを再開したため、対前年比115.7%、45,281人の増となった。

○学習機会の提供として、各種教育活動の受け入れや出張講話等を実施。

- 学校教育課程の受け入れ：61件、2,658名
- 保育園、子供会等の受け入れ：45件、1,577名
- 出張講話、観察指導：65件、2,320名
- 職場体験、実習等の受け入れ：15件、18名

○展示生物の繁殖・収集に取り組み、H30年度末の状況は432種、11,091点で、前年比51種、1,765点の増となった。

3 「取組内容」に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> 開館時間を延長し、夜間に「ナイトアクアス」開催。イルミネーションや屋台村、体験イベントを実施するなど、新たな集客対策に取り組んでいる。 展示内容に変化をもたせるため、環境学習や海洋資源の保護などの学習要素を取り入れた特別企画展を開催。
課題分析	① 「目的」の達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点	<ul style="list-style-type: none"> 年間入館者数の減少 生物の繁殖・飼育、健康管理等に必要な備品の不足・老朽化
	② 上記①(課題)が発生している原因	<ul style="list-style-type: none"> 他地域での新たな水族館の開館や大型イベントの開催 魅力の低下(他の水族館との差別化、パフォーマンス等の恒常化) 国内外の観光客への認知度不足 繁殖、飼育に必要な備品が多数あること、また、医療機器は高額なものが多いため、一括の更新等は困難
	③ 上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信を強化し、国内外の観光客の誘客を図る。 各種イベントを開催し、観るだけでなく体験をしてもらうことで、新たな魅力を感じてもらい、リピーターの確保を図る。 入館者等を対象としたアンケート調査結果を踏まえ、中長期的な集客対策として、新たな生物の導入や施設整備等も視野に入れた展示のあり方について検討していく。 計画的に医療機器や備品の更新等を行い、環境整備に努める。

事務事業評価シート 評価実施年度： 令和元年度

上位の施策	施策Ⅲ-4-2 自然とのふれあいの推進
-------	------------------------

1 事務事業の概要

担当課	自然環境課
-----	-------

名称	自然公園管理事業				
目的	誰(何)を対象として	自然公園利用者	事業費 (千円)	前年度実績	今年度計画
	どういう状態を目指すのか	安全で快適な利用の確保を図る。		25,486	94,814
			うち一般財源	13,346	16,966
今年度の取組内容	県内の自然公園(国立公園、国定公園、県立自然公園)では、各公園計画に基づき、公園を利用するための施設(遊歩道、駐車場、公衆トイレなど)が整備されている。このうち、県が整備した遊歩道や施設について、地元市町村に除草、清掃やパトロール等施設の日常管理委託を行う。また、快適な利用ができるよう老朽化施設の修繕など維持管理を行う。更に、自然災害などによる倒木・落石等の処理を行い、安心・安全な利用が出来るよう維持管理に努める。				
前年度に行った評価を踏まえて見直したこと	地元団体による維持管理が可能な箇所について、除草伐採業務を行い、景観の整備を行うこととした。(しまねの自然公園満喫プロジェクト推進事業、H30 地蔵崎(松江市)及び立久患峡(出雲市)について実施)				

2 成果参考指標等の状況

成果参考指標		年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	
1	指標名	自然公園の利用者数	目標値		9330.0	9330.0	9330.0	9330.0	千人
			(取組目標値)		12370.0	12370.0	12370.0	12370.0	
	式・定義	自然公園の利用者数	実績値	12370.0	11657.0	11671.0	11292.0		
			達成率	-	94.3	94.4	91.3		%
2	指標名		目標値						
			(取組目標値)						
	式・定義		実績値						
			達成率	-	-	-	-	-	%
「成果参考指標」の他に参考とすべきデータや客観的事実など									

3 「取組内容」に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組みによる改善状況	<ul style="list-style-type: none"> 市町村等と連携し、危険な箇所を速やかに通行止めにするともに、施設の状況や利用頻度等から判断し、緊急度の高いところから修繕や倒木処理等を行い、利用者の安全を確保した。 伐採、除草作業により景観の整備を行うことで、自然公園の魅力向上を図った。 利用者数は11,292千人で、目標値は達成したが、取組目標値を達成しなかった。
課題分析	① 「目的」の達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点	<ul style="list-style-type: none"> 利用者や自然保護レンジャー等から、施設の破損や不具合、自然災害による倒木・落石・草木の繁茂などについて連絡や苦情がある。 草木の繁茂により眺望が阻害されているところがある。 公園内の歩道等で、利用が低迷して殆ど人が通らない箇所がある。
	② 上記①(課題)が発生している原因	<ul style="list-style-type: none"> 施設の老朽化が進んでいる。 地震や大雨、大雪などの自然災害による倒木・落石などが多数発生している。 対象地域が広く施設も多い中で、事業費・体制の不足等により、不具合が出たところから修繕していくことで手一杯な状況。
	③ 上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 適正な維持管理、施設修繕、倒木・落石処理などを行う予算を十分に確保し、安心・安全な利用ができるよう整備に努める。 管理を委託している市町村との連携を強化し、地元の協力を得ながら管理運営をしていく。 国立公園満喫プロジェクトと連携して、景観の整備や安心安全で快適な施設整備を行っていく。 老朽化の状況や利用頻度等から判断し、緊急度の高い箇所から修繕を進めるとともに、市町村への譲渡や不要な施設の撤去を検討する。

事務事業評価シート 評価実施年度： 令和元年度

上位の施策	施策Ⅲ-4-2 自然とのふれあいの推進
-------	------------------------

1 事務事業の概要

担当課	自然環境課
-----	-------

名称	中国自然歩道管理事業				
目的	誰(何)を対象として	中国自然歩道の利用者	事業費 (千円)	前年度実績	今年度計画
	どういう状態を目指すのか	安全で快適な利用の確保を図る。		37,450	33,150
今年度の取組内容	県全域に渡る中国自然歩道のうち、主にモデルコースとなっている、県が整備した歩道区間・施設について、地元市町村に除草、清掃、バトロール等を委託して日常的な管理を行うと共に、破損・故障箇所の修繕を行い、快適な利用に努める。 また、自然災害などによる倒木処理・落石対策を行い、安心・安全な利用が出来るよう維持管理を行う。更に危険箇所については、通行止などの対応により、利用者の安全確保を行う。 また、パンフレットの配布、県ホームページを活用し、中国自然歩道の情報の提供や利用促進を行う。				
前年度に行った評価を踏まえて見直したこと	地元団体による維持管理が可能な箇所について、除草伐採業務を行い、景観の整備を行うこととした。 (しまねの自然公園満喫プロジェクト推進事業、H30 立久恵峡(出雲市)について実施)				

2 成果参考指標等の状況

成果参考指標		年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	
1	指標名	中国自然歩道の利用者数	目標値		450.0	450.0	450.0	450.0	千人
			(取組目標値)		552.0	552.0	552.0	552.0	
	式・定義	中国自然歩道の利用者数	実績値	552.0	526.0	537.0	504.0		
			達成率	-	95.3	97.3	91.4		%
2	指標名		目標値						
			(取組目標値)						
	式・定義		実績値						
			達成率	-	-	-	-	-	%

「成果参考指標」の他に参考とすべきデータや客観的事実など

3 「取組内容」に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組みによる改善状況	<ul style="list-style-type: none"> 市町村等と連携し、危険な箇所を速やかに通行止めとするとともに、施設の状況や利用頻度等から判断し、緊急度の高いところから修繕や倒木処理等を行い、利用者の安全を確保した。 伐採、除草作業により景観の整備を行うことで、中国自然歩道の快適性の向上を図った。 利用者数は504千人で、目標値は達成したが、取組目標値を達成しなかった。
課題分析	① 「目的」の達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点	<ul style="list-style-type: none"> 利用者や自然保護レンジャー等から、施設の破損や不具合、自然災害による倒木・落石・草木の繁茂などについて連絡や苦情がある。 草木の繁茂により眺望が阻害されているところがある。 ルート中に、利用が低迷して殆ど人が通らない箇所がある。 市町村から、管理委託料の不足のため、積算見直しの要望がある。
	② 上記①(課題)が発生している原因	<ul style="list-style-type: none"> 施設の老朽化が進んでいる。 地震や大雨、大雪などの自然災害による倒木・落石などが多数発生している。 対象区間が広く施設も多い中で、事業費・体制の不足等により、不具合が出たところから修繕していくことで手一杯な状況。 労務単価の上昇により、草刈等管理委託料が不足。
	③ 上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 適正な維持管理、施設修繕、倒木・落石処理などを行う予算を十分に確保し、安心・安全な利用ができるよう整備に努める。 管理を委託している市町村との連携を強化し、地元の協力を得ながら管理運営をしていく。 国立公園満喫プロジェクトと連携して、景観の整備や安心安全で快適な施設整備を行う。 老朽化の状況や利用頻度等から判断し、緊急度の高い箇所から修繕を進めるとともに、市町村への譲渡や不要な施設の撤去、ルートの見直しを検討する。

事務事業評価シート 評価実施年度： 令和元年度

上位の施策	施策Ⅲ-4-2 自然とのふれあいの推進
-------	------------------------

1 事務事業の概要

担当課	自然環境課
-----	-------

名称	三瓶自然館サヒメル等の施設管理運営事業				
目的	誰(何)を対象として	県民及び県を訪れる人々	事業費 (千円)	前年度実績	今年度計画
	どういう状態を目指すのか	自然についての体験や学習を通じて、自然保護の重要性などを理解してもらう。		307,622	328,934
今年度の取組内容	1. 三瓶自然館及びその附属施設については、指定管理者と協力し下記事業を実施 ①企画展等の開催(春、夏の2回)、自然観察会、天体観察会 ②各種イベント開催などを通して、自然に対する理解を深める取り組みの実施 ③島根県の自然系博物館としての調査研究 ④各種広報活動(PR活動、新聞への寄稿、CATV番組の提供など) ⑤三瓶自然館の再整備、多言語化整備※ 2. 小豆原埋没林の保存対策 ①展示棟外の保存対策について調査設計②展示棟内の保存状態のモニタリング③埋没林公園ガイダンス等整備※ ※ しまねの自然公園満喫プロジェクト推進事業による				
前年度に行った評価を踏まえて見直したこと	・国立公園満喫プロジェクトの拠点施設として三瓶自然館の展示改修、小豆原埋没林公園のガイダンス施設整備を行うこととした。(しまねの自然公園満喫プロジェクト推進事業 H30~設計 H31~工事) ・外国人の利用を促進するため外国人割引を開始した。(H30~)				

2 成果参考指標等の状況

成果参考指標		年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	
1	指標名	サヒメル等の利用者数	目標値		147.0	147.0	147.0	147.0	千人
		(取組目標値)							
	式・定義	サヒメル等の利用者数	実績値	131.0	141.0	133.0	112.0		
		達成率	-	96.0	90.5	76.2	-	%	
2	指標名		目標値						
		(取組目標値)							
	式・定義		実績値						
		達成率	-	-	-	-	-	%	
「成果参考指標」の他に参考とすべきデータや客観的事実など ・成果参考指標の実績値・達成率について：平成30年7月に発生した西日本豪雨災害の影響により山陽・関西方面からの来館者が激減したため達成率が低くなった。 ・来館者さんからの意見として、楽しかった・おもしろい、また来たい、スタッフの対応が丁寧など多くの意見をいただいている。									

3 「取組内容」に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組みによる改善状況	<ul style="list-style-type: none"> 企画展の内容をより深く理解するための関連イベントや、季節毎の自然観察会、体験イベントを積極的に開催した。 利用者数は112千人で、豪雨災害等による影響が大きく目標を達成できなかった。
課題分析	① 「目的」の達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点	<ul style="list-style-type: none"> 三瓶自然館の展示内容について、学術的価値や最新の情報が十分に伝えられていない。 企画展を実施していない期間の来館者数が少ない。 外国人の施設利用がほとんどない。 小豆原埋没林公園の学術的価値が十分に伝えられていない。
	② 上記①(課題)が発生している原因	<ul style="list-style-type: none"> 三瓶自然館は施設・設備の整備後年月を経ており、展示についてもこれまで大幅な更新をしていないため、陳腐化してきている。 外国人が理解できる施設案内や展示内容となっていない。 小豆原埋没林公園には、展示解説的な施設・設備がほとんどない。
	③ 上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 国立公園満喫プロジェクトの拠点施設として三瓶自然館の展示改修等機能強化を図る。整備にあたっては、フィールドと融合して楽しめる施設、島根の自然を分かりやすく解説する施設へ更新するとともに、多言語化し、外国人来館者の増加につなげる。また、子どもたちが遊びながら自然の大切さを学べる施設として整備を行う。(しまねの自然公園満喫プロジェクト推進事業) 新規来館者対策として、HPやSNSによる情報発信の充実、各メディアの活用、観光協会等と連携したPRを行う。 小豆原埋没林公園にガイダンス施設を整備する。(しまねの自然公園満喫プロジェクト推進事業)

事務事業評価シート 評価実施年度： 令和元年度

上位の施策	施策Ⅲ-4-2 自然とのふれあいの推進
-------	------------------------

1 事務事業の概要

担当課	農林水産部農産園芸課
-----	------------

名称	花ふれあい公園事業				
目的	誰(何)を対象として	県民	事業費 (千円)	前年度実績	今年度計画
	どういう状態を目指すのか	①多くの県民が四季を通じて花に親しみ、ふれあえる暮らしが実現される ②「島根の花」の情報発信により、花きの消費拡大や生産振興が図られる		84,273	84,856
今年度の取組内容	花ふれあい公園「しまね花の郷」の指定管理者であるNPO法人国際交流フラワー21を通じ、以下の取組みを実施。 ①四季折々の花の企画展示や体験企画など、県民が花に親しむ機会を提供 ②県の花き振興品目を中心とした企画展示や県オリジナル品種の情報発信 ③他施設や他団体と連携した集客の実施				
前年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・例年入園者数が減少する11～2月の集客対策のため、新企画の実施や展示内容を充実化 ・視覚障がい者の方も香りで花を楽しむ「バラとハーブの小庭」の整備 ・植物の生態や生育環境に重点を置いた花壇整備 				

2 成果参考指標等の状況

成果参考指標		年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	
1	指標名	入園者数	目標値		65000.0	65000.0	65000.0	70000.0	人
			(取組目標値)						
	式・定義	年間入園者数	実績値	63421.0	60285.0	65771.0	66983.0		
			達成率	—	92.8	101.2	103.1	—	
2	指標名		目標値						
			(取組目標値)						
	式・定義		実績値						
			達成率	—	—	—	—	—	
<p>「成果参考指標」の他に参考とすべきデータや客観的事実など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園内の展示植物の地元調達率は平成30年度で99.2%となり、県内花きの消費拡大、PR等にも貢献している。 									

3 「取組内容」に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組みによる改善状況	<ul style="list-style-type: none"> ・入園者増加に向け、4～6月のアジサイ企画展示や展示、花壇の改植、整備、JRとのタイアップした出雲市駅での花装飾展示などに取組み、着実な入園者数の増加により、平成29年度から目標入園者数を達成。
課題分析	① 「目的」の達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の経年劣化による修繕必要箇所が増加している。 ・月により入園者数の変動がある。 ・年間パスポート利用者が増加している反面、出雲地域以外からの来場者が少ない。
	② 上記①(課題)が発生している原因	<ul style="list-style-type: none"> ・修繕は長期保全計画により実施されるが、建設から年数を経ていることから、修繕箇所が増加、予算が追いついていない状況。 ・特に冬期間については、雪や気温の影響で外出しにくいことが想定される。 ・広域客や観光客への認知度が低い。
	③ 上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・予算確保による修繕の早期実施。 ・冬期間の企画の充実など、花き文化振興拠点として、より多くの来場者に花の魅力を感じてもらえる企画の立案と実施。 ・他施設との連携やSNSの活用などの広報活動強化による、観光客や県内広範なエリアへのPR強化。

事務事業評価シート 評価実施年度： 令和元年度

上位の施策	施策Ⅲ-4-2 自然とのふれあいの推進
-------	------------------------

1 事務事業の概要

担当課	水産課
-----	-----

名称	宍道湖自然館管理運営事務				
目的	誰(何)を対象として	一般来館者、一般県民	事業費 (千円)	前年度実績	今年度計画
	どういう状態を目指すのか	島根の汽水・淡水域に生息する水生生物を中心とした展示及び調査研究を通じて、島根の豊かな自然について、楽しみながら学ぶ機会を提供する。		111,271	113,005
今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・期間限定イベントや年間パスポート購入者限定イベントの実施によるリピーターに対する付加サービスの提供 ・指定管理者が隣接地で運営する宍道湖グリーンパーク（鳥や昆虫の観察等）と連携した活動の推進及び情報の発信 ・関係機関と連携した教育普及プログラムの充実 ・今後の展示設備の在り方について、指定管理者と連携した施設整備及び改修の検討 				
前年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者である財団からの寄附による施設整備を実施。 ・特別展の未開催期間にキッズコーナーの設置やパネル展示を実施。 				

2 成果参考指標等の状況

成果参考指標		年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	
1	指標名	入館者数	目標値		105000.0	105000.0	105000.0	105000.0	人
			(取組目標値)		110000.0	110000.0	110000.0	110000.0	
	式・定義	宍道湖自然館の年間入館者数	実績値	124164.0	116153.0	122228.0	132710.0		
			達成率	—	105.6	111.2	120.7		%
2	指標名		目標値						
			(取組目標値)						
	式・定義		実績値						
			達成率	—	—	—	—	—	%

「成果参考指標」の他に参考とすべきデータや客観的事実など

- ・入館者数が11年ぶりに13万人を達成。年間パスポート購入者数が過去最多を記録した。（購入者数2,799人、対前年比137%）
- ・期間限定の新たなイベント（わくわくどっきりザリガニタッチプール、おさかなストラップを作ろう！、ボトルアクアリウムを作ってエビを飼ってみよう！）を開催した。
- ・特別展の未開催期間にキッズコーナーの設置やパネル展示（ラムサール探偵団活動紹介）を行った。
- ・指定管理者である財団からの寄附による施設整備を実施した。（常設展示にシラウオ専用水槽を新設、ボードウォーク更新）
- ・全国初となるシラウオ周年展示記録を更新し、4年目に突入した。
- ・定例自然観察会開催（毎月1回、431名） 学校や公民館への講師派遣（20回、1,037人）
- ・学校、保育園、子供会等の受け入れ（95件、4,230回） 職場体験、実習等の受け入れ（7件、11名）

3 「取組内容」に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組みによる改善状況	<ul style="list-style-type: none"> ・人工授精によって誕生したシラウオの累代繁殖を続けており、安定した常設展示が可能になった。 ・指定管理者である財団からの寄附による施設整備を実施し、常設展示へのシラウオ専用水槽新設により集客施設としての魅力化を図るとともに、ボードウォーク更新により利便性の向上が図られた。 ・各種教育活動の受け入れや出張講話等を行い、水辺の生き物に対する興味関心と学習意欲の高揚に貢献した。
課題分析	① 「目的」の達成のため（又は達成した状態を維持するため）に支障となっている点	<ul style="list-style-type: none"> ・集客施設として魅力を支える展示設備が陳腐化している。 ・指定管理者が今後一層のサービス向上を図っていくための人員体制が十分ではない。
	② 上記①（課題）が発生している原因	<ul style="list-style-type: none"> ・「あそびっ湖まなびっ湖ひろば」以外の展示設備は、平成13年度の開館当初から改修していない。 ・館内施設の老朽化が進み、修繕費のランニングコストが増加している。特に給排水・電気設備等の機械設備の老朽化が著しく、緊急修繕が必要な状況が発生している。 ・館内サービスの充実に加えて、講師派遣により地域への貢献の場を広げているが、対応できる職員数が限られている。
	③ 上記②（原因）の解決・改善に向けた見直し等の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・来館者の多くを占めるリピーターの満足度向上を目指し、定期的な新鮮さを取り入れる必要がある。 ・限られた職員により一層の効率的な運営を図っていくとともに、職員のさらなるスキルアップを進めていく必要がある。 ・館内施設の老朽化の現況を調査・確認し、長寿命化計画に盛り込むことで、施設の安全維持のために必要な修繕を計画的に進めていく必要がある。

事務事業評価シート 評価実施年度： 令和元年度

上位の施策	施策Ⅲ-4-2 自然とのふれあいの推進
-------	------------------------

1 事務事業の概要

担当課	自然環境課
-----	-------

名称 隠岐ユネスコ世界ジオパーク活用推進事業					
目的	誰(何)を対象として	隠岐地域に住む人、隠岐地域を訪れる人	事業費 (千円)	前年度実績	今年度計画
	どういう状態を目指すのか	平成25年9月に世界認定となった隠岐ジオパークの取り組みで、持続可能な経済活動や文化活動を推進することにより、隠岐地域の活性化と振興を図る		49,654	77,458
今年度の取組内容	地域振興、観光振興、保全保護、調査研究、教育・人材育成のため、隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会と連携して下記取り組みを実施する ①隠岐ユネスコ世界ジオパークを運営する推進協議会の運営経費の一部を負担 ②隠岐ユネスコ世界ジオパーク内のジオサイトの施設整備 ③県内外への情報発信、他のジオパークやそれを有する自治体や運営組織などと連携した認知度向上の取り組み ④拠点施設・中核施設の整備を支援(隠岐の島町、海士町) ⑤隠岐ユネスコ世界ジオパークでの島根の子供を対象とした体験学習の実施				
前年度に行った評価を踏まえて見直したこと	・国内外の認知度を更に向上させるため、情報発信手法を再検討 ・来島者の満足度を更に向上させるため、個人旅行者への訴求力が高いSNSを活用した商品開発の推進				

2 成果参考指標等の状況

成果参考指標		年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位
1	指標名	交流人口数(推定入島客数)	目標値	150.0	150.0	150.0	150.0	千人
	式・定義	毎年度140千人を確保しつつ150千人を目指す	(取組目標値)					
			実績値	132.9	122.9	125.3	123.8	
			達成率	-	82.0	83.6	82.6	%
2	指標名	隠岐ジオパークのユネスコ世界ジオパークの再認定及びその継続	目標値	1.0	1.0	1.0	1.0	件
	式・定義	隠岐ジオパークのユネスコ世界ジオパークの再認定及びその継続(4年ごと)	(取組目標値)					
			実績値	1.0	1.0	1.0	1.0	
			達成率	-	100.0	100.0	100.0	%

「成果参考指標」の他に参考とすべきデータや客観的事実など

- 平成30年1月にユネスコ世界ジオパークとして再認定(次回再認定は令和3年度)
- 隠岐地域の観光入込客延べ数：H29年186千人→H30年168千人(観光動態調査結果)
- 交流人口数(推定入島客数)：H29年度:125千人→H30年度:124千人
- 隠岐を訪れる外国人観光客：H29年度:1,158人→H30年度:911人(いずれも隠岐汽船利用者のみ)
- ジオサイトの施設整備・維持修繕を計画的に実施
- 隠岐の全小中学校でジオパーク学習の実施、隠岐の3高校での交流事業を実施
- SNSを活用した首都圏誘客広報の実施

3 「取組内容」に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組みによる改善状況	○令和3年度のユネスコ世界ジオパークの再認定に向けて、平成29年7月の再認定審査における指摘事項(展示施設の整備、誘導標識・サイト看板の整備、地質遺産の教育促進等)の対応は進んでいるが、観光振興の面で観光入込客数や交流人口数などの具体的な数値に結果が表れていない
課題分析	① 「目的」の達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点	○隠岐ユネスコ世界ジオパークの認知度がまだ低い ○地元の住民・事業者・行政等が来島者に魅力を伝える仕組みや取組みが十分でない
	② 上記①(課題)が発生している原因	○現在の情報発信手法では、届けたい相手に情報が届いていないため、隠岐ユネスコ世界ジオパークの魅力ある自然景観などが観光資源として活用できていない
	③ 上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性	引き続き以下の分野を柱とする具体的な事業を隠岐4町村及びジオパーク推進協議会と連携して取組む ①情報発信手法の見直し及び強化…映像作家作成動画での情報発信及び、SNSの活用、1ヵ所でのPR等 ②多言語対応の強化…HP(コンテンツ含む)、リーフレット、ガイドブック等の5か国語対応、QRコードの活用等 ③来島者の満足度向上…認定ガイドの養成、ジオパーク関連商品の開発、ジオパーク看板の更新 ④地域への啓発向上…島民対象の学習会・講座・検定・ジオパーク等の実施、ジオパークツアーの養成 ⑤学校教育との連携…児童・生徒へのジオパーク学習、高校の魅力化(3高校の連携事業) ⑥施設・設備の整備…ヒーターセーター、ガイド、人材育成機能を持つ拠点施設・中核機能を整備

事務事業評価シート 評価実施年度： 令和元年度

上位の施策	施策Ⅲ-4-2 自然とのふれあいの推進
-------	------------------------

1 事務事業の概要

担当課	林業課
-----	-----

名称		森林林業体験活動推進事業			
目的	誰(何)を対象として	県民	事業費 (千円)	前年度実績	今年度計画
	どういう状態を目指すのか	森林とふれあうことを通じて森林に対する理解を促進する		40,460	43,242
			うち一般財源	38,114	39,642
今年度の取組内容	ふるさと森林公園： ・適正な公園管理と効果的な公園利用の促進を図る。 ・来園者の安全確保を最優先に、既存施設の計画的な維持・更新、園内樹木の管理を行う。 ・県民の森については森とのふれあいの場として「県民の森ふれあい講座」を14回実施する予定である。				
前年度に行った評価を踏まえて見直した点	・植栽木の管理コストを軽減するため、植栽木の一部で維持管理が容易になる仕立て方を行った。 ・早くから幹線林道の除雪にとりかかり、来場しやすい環境整備を行った。				

2 成果参考指標等の状況

成果参考指標		年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	
1	指標名	ふるさと森利用者数	目標値		12100.0	12500.0	12900.0	13300.0	人
		(取組目標値)							
	式・定義	ふるさと森林公園(学習展示館)利用者数の過去5年間平均値	実績値	11786.0	12113.0	12196.0	12026.0		
			達成率	-	100.2	97.6	93.3	-	
2	指標名		目標値						
		(取組目標値)							
	式・定義		実績値						
			達成率	-	-	-	-	-	

「成果参考指標」の他に参考とすべきデータや客観的事実など

ふるさと森林公園：
 学習展示館の利用者数は、12026人で昨年度を下回ったものの、森の誕生日、里山自然塾など県主催のイベントで4321人の来場者があった。
 県民の森：
 H22年度に「もりのす」とキャンプ場周辺を飯南町に譲渡しており、譲渡施設周辺の維持管理業務は飯南町が行っている。
 県民の森ふれあい講座では自然体験を3講座、木工教室を2講座、登山を9講座の14回を行い279人の参加者があった。

3 「取組内容」に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組みによる改善状況	ふるさと森林公園： ・プロポーザル方式による管理運営委託者を決定し、公園利用の促進と適正管理が図られた。 ・来園者の利便性を維持する給水施設を更新できた。 ・ふるさと森林公園、県民の森ともに多くの利用者が訪れ、森林や自然に親しんでもらっている。
課題分析	① 「目的」の達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点	・森林学習展示館の利用者が減ってきている。 ・施設全体が老朽化しており、魅力・特徴ある公園として利用するための快適性が低下している。 ・県民の森は積雪の多い地域にあり、幹線林道への融雪時の法面の土砂の流出や、台風、降雨後の落石、落枝の発生により利用者の安全な通行に支障をきたすおそれがある。
	② 上記①(課題)が発生している原因	・開園から20年以上経過し、施設・機器が一斉に老朽化している。園内の樹木も大径・高木化して管理に必要な労力を多く要している。 ・松くい虫やナラ枯れ枯死木が発生し、安全確保のための危険木処理が追いつかない。駐車場においても一部、斜面崩壊が発生しており、立入り制限を設け、応急処置の実施に留めている。 ・県民の森の幹線林道も古いため、法面を保護するネットやガードレールなどの痛みや損傷がある。
	③ 上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性	・関係機関と連携して利用方法・区域の集中化等の見直しを検討する。来園者の安全確保を最優先として、計画的な既存施設の維持・更新、および園内樹木の管理を行うとともに、緊急性のある修繕・維持管理への迅速な対応と危険察知の体制を確保する。 ・森のイベントを企画する団体等との連携・協力体制を強化し、新たなイベント等企画を促進する。 ・県民の森では巡視、パトロールなどによる施設管理の徹底と小規模災害への迅速な対応による利用者の安全確保に努める。大規模な災害については県土事務所への情報提供と復旧に向け協力する。

事務事業評価シート 評価実施年度： 令和元年度

上位の施策	施策Ⅲ-4-2 自然とのふれあい推進
-------	-----------------------

1 事務事業の概要

担当課	自然環境課
-----	-------

名称	しまねの自然公園満喫プロジェクト推進事業				
目的	誰(何)を対象として	外国人利用者をはじめとした県内自然公園の利用者	事業費 (千円)	前年度実績	今年度計画
	どうい状態を目指すのか	県内の自然公園の活用を図り、外国人利用者をはじめとした公園利用者の増加を目指す		426,415	512,634
			うち一般財源	39,328	65,267
今年度の取組内容	<p>平成28年度、環境省の「国立公園満喫プロジェクト」に大山隠岐国立公園が選定されたことを機に、国立公園をはじめとした県内自然公園（国立公園、県立自然公園等）の受入体制を整備し、国内外からの来訪者の誘致と増加を目指す「しまね自然の公園満喫プロジェクト」に取り組んでいる。</p> <p>平成31年度は、満喫プロジェクトの中核施設として三瓶自然館の展示リニューアルや小豆原理没林公園のガイダンス施設整備、三瓶山地域、半島東部・西部地域の登山道・遊歩道や看板整備などを行うとともに、各地域の協議会と連携して海外旅行会社を招いたモニターツアーなどを実施する。また、プロモーションビデオや多言語パンフ等情報発信の強化を図る。</p>				
前年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<p>海外旅行会社向けのモニターツアーを実施し、旅行会社へのPRを図るとともに外国人のニーズの把握と受入側の体制の確立を図る。また、韓国などを対象とした複数のモニターツアーや、オフシーズンのモニターツアーの実施などに努める。</p>				

2 成果参考指標等の状況

成果参考指標		年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	
1	指標名	大山隠岐国立公園（島根県内）訪日外国人利用者数	目標値	11.0	14.0	17.0	20.0	千人	
	式・定義	国立公園訪日外国人利用者数	(取組目標値)						
			実績値	11.0	8.9	未			
			達成率	—	100.0	63.6	#VALUE!	—	%
2	指標名		目標値						
	式・定義		(取組目標値)						
			実績値						
			達成率	—	—	—	—	—	%

「成果参考指標」の他に参考とすべきデータや客観的事実など

成果参考指標の参考としたのは、主要な周辺都市部の外国人宿泊者数及び国立公園訪問比率による推計値である。この結果は、平成29年、前年実績の11千人を下回っている結果となっているので、大山隠岐国立公園に訪れる外国人数が十分に反映されていないと思われる。これは、調査地点が少なく、インバウンド観光が反映する空港やクルーズ船が就航する港などが調査対象となっていないことによると思われる。

参考データとして、環境省が、令和元年6月、大山隠岐国立公園関係市町村及び周辺宿泊拠点の外国人宿泊者数推計を発表しており、この推計値では、平成27年：27,419人、H28年：35,420人、H29年36,098人、H30年46,676人と増加している状況。

3 「取組内容」に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組みによる改善状況	<ul style="list-style-type: none"> 海外の旅行会社を招致するファミトリップや外国人旅行者のモニターツアーなどの実施を行い、SNSでの情報発信や参加者に広めてもらう手法を使ったPRは一定の成果がでている。 また、トレッキングなどのモニターツアーは、オンシーズンだけでなくオフシーズンでも実施し、参加者へのプロモーションや外国人ニーズの把握等を行い、オフシーズンでも十分実施できることが確認できた。
課題分析	① 「目的」の達成のため（又は達成した状態を維持するため）に支障となっている点	<ul style="list-style-type: none"> 自然公園等の登山道・遊歩道の整備、看板の多言語化などインバウンド対策が遅れている 国内外における認知度が低い 地元を紹介するガイドが不足している 自然公園への交通アクセスが悪い
	② 上記①（課題）が発生している原因	<ul style="list-style-type: none"> 国の交付金の配分が十分でなく計画的な整備ができない（国の交付金の配分が不安） ガイドの人材育成が不足している ホームページなどインターネットからの情報発信強化や国内外へのプロモーションの強化が必要 自然公園への路線バスなどの公共交通機関の運行が不十分。
	③ 上記②（原因）の解決・改善に向けた見直し等の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 国への重点要望など強力な働きかけを行い必要な交付金を十分に配分してもらう 国内外からの来訪者が迷わないよう案内看板やサインの整備、多言語化を行う また、安全安心、快適に利用できる自然歩道等の施設の整備と適切な維持管理を行う 地域の地域協議会への支援により体験プログラムの充実、ガイド養成等を行う 国内外への情報発信強化としてHPでの発信やパンフレット等の多言語化を行う 地域間を結ぶ広域的なモデルツアーを実施する。 また、国・県・市が連携して交通アクセスの手法を検討する。